

宮脇淳子・福島香織 著

Junno Miyawaki · Kaori Fukushima

中国美女の正体

Forest
2545
Shinsyo

はじめに

お隣の国、中国は、日本人にとって良くも悪くも身近な国です。

人口は日本の一〇倍以上、一三億人を超えています。GDPもついに日本を抜いて世界第二位になりました。最近では中国で働く日本人も多くなりましたし、日本に住む中国人はさらに増える一方です。人間の行き来が増えるということは、とりもなおさず男女の関係も多くなるということです。

中国女子と日本男子の結婚数も増加し、正式の結婚にはいたらなくても、中国女性と関係を持つ日本人も増えました。けれども、では日本男子が、中国人である彼女たちの文化背景をどれくらい理解しているかという点、とても心許ないのです。

日本人と中国人は見た目はそっくりです。でも精神世界はまったく違ってきます。アメリカ人や西ヨーロッパ人のほうがよほど日本人に近いと言っているくらいです。

なぜだと思いませんか？

そのことをわかっていただくために、この本をつくりました。

私はもともと、モンゴルに興味があつて研究者になりました。

なんでモンゴルかというと、和歌山の実家が、私の祖父で一六代続いた浄土真宗の寺で、祖父を一族の長とする人間関係が本当に窮屈で、人の少ない大陸の草原で生きる遊牧民は、自由だろうなあと憧れたからです。

実際に研究してみると、思っていたのとはずいぶん違って、自然環境が厳しいので、実は家族の絆はとても強いことがわかりました。

でも、モンゴルを研究して良かったことはいっぱいあります。第一に、モンゴルから日本を見直すと、日本がなんていい国かわかります。第二に、日本にとって理解しにくい中国を、後ろ側から眺めることができるのです。

私は長年、日本とモンゴルの両方から挟み撃ちすることによって、中国の嘘を見破る研究をしてきましたが、二〇一一年一月には、編集者相手に私が語った内容をまとめた『真実の中国史』[1840—1949]（李白社発行／ビジネス社発売）が刊行されました。

おかげで、今回の依頼もきたようなわけですが、私の専門は歴史なので、どちらかというと史料が頼りです。一方、福島香織さんは、中国人に直接取材してきたジャーナリストなので、私の知らないいまの中国をよく知っています。

二〇一一年二月に彼女が『潜入ルポ 中国の女』（文藝春秋刊）、『中国のマスゴミ』（扶桑社刊）を刊行したとき、「シアター・テレビジョン」の私の番組にゲスト出演していただき、意気投合しました。

福島さんは出身は奈良県だし、大阪大学で私の後輩にあたります。でも気が合うのはそれだけではなくて、二人とも率直で正直だからでしょう。

読んでくださればわかりますが、まあ二人ともよくもこんなに大胆にあげすけに、男女の話を語ったなあ、とわれながら感心しました。私はもう恥ずかしがるような年でもないし、わが愛する日本の（若い）男子たちに、ぜひ幸せになってもらいたいと思っているの、知っていることを全部話しました。

対談を終えて読み直してみても、中国の女性について、こんなにさまざまな角度から詳しく説明した本は、いままでなかったことに気づきました。同時に、副産物ですが、

女の視点から中国を語ることによって、中国文明の本質もいつそうよくわかります。

中国の女性について、私がかつて読んだ本や歴史のうえからあれこれ想像していたことが、福島さんが実際に当人たちの口から聞いた話で裏付けられたことに、私は大変満足しています。

中国は人口が日本の一〇倍あるわけですから、美女も一〇倍はいる計算になります。日本男子が中国美女にクラクラッとなつて一緒になるケースは、これからも増えるに違いありません。そのときに、相手の文化背景を知らなければ、もめ事も間違いなく起こるでしょう。

中国は、長い間日本の隣にありましたが、けつして日本と「同文同種」ではありません。この本でそのことを少しでもわかつたうえで、中国女性とつき合つて、幸せを見つけてほしい。心の準備をして、覚悟を決めてつき合つてほしいと願っています。

宮脇 淳子

中国美女の正体●目次

第1章 中国女子とは何者なのか？

- どんな女性が中国女子と呼ばれるのか？ / 16
- 中国の夜の女・小姐たち / 19
- 留学生の中国女子事情 / 23
- 男女平等な中国社会は女性起業家に有利？ / 27
- 中国人には二つの戸籍が存在する / 31
- 農村から都市への転籍 / 35
- 中華人民共和国の以前と以後で何が変わったか？ / 39
- 中国美女の多い土地は？ / 44
- 大事に育てられる一人っ子世代 / 49
- 八〇后と九〇后の現代中国女子 / 53

第2章 中国女子は何を思う？

- 自意識過剰なネットアイドルも出現 / 55
- 日本女子に憧れる中国女子 / 58
- 同じ国民でも頭の中はバラバラ / 60
- 中国女子が男の子を産まなければならぬ理由 / 66
- 妻も敵になる、中国人の夫婦愛 / 68
- 中国人と日本人の恋愛ギャップ / 71
- 思想統制をかくぐる中国文学 / 75
- 中国の識字率は実際はもつと低い？ / 78
- 日本から恋愛を輸入する中国女子 / 82
- 中国人は宗教観でもまとまらない / 85
- お金？結婚？一族？中国女子の幸せとは / 89

第3章

中国女子の人生は貧富の差で決まる!?

- ドライな中国人とウエットな少数民族 / 94
- 「婦女能頂半边天」というスローガンの嘘 / 96
- したたかに生きるしかなかった中国女子 / 98
- やっぱり美人は得なのか? / 100
- 美人志向と中国の整形事情 / 102
- 美を使ってチャンスをつかむ中国女子 / 106
- 華僑はもともと貧乏からの脱出だった / 110
- 食にこだわる中国人 / 114
- 華僑の商売の歴史 / 116
- 都市と農村の貧富の差 / 120
- 権力をビジネスに利用する幹部の妻たち / 124

第4章 日本男子は中国女子をどう思う？

- 中国の土地開発の仕組み / 128
 - 海外に流れる幹部の息子たち / 131
 - 本当のお金持ちはお金持ちに見られないようにする / 134
 - 農村から出稼ぎに来る中国女子の実態 / 137
 - 同郷で固める中国の出稼ぎシステム / 142
 - 搾取される出稼ぎ労働者の実態 / 144
 - 三億人いる？ 中国のぶ厚い貧困層 / 148
 - 貧しいことが罪なのか？ 金がすべての中国社会 / 150
-
- 日本人と中国女子に歴史的接点はあるのか？ / 156
 - 中国が誇る宣伝戦略の勝利 / 159
 - 携帯、進学、入院……日本人が通う、夜の学校 / 162

第5章

中国女子は日本男子をどう思う？

- お金の貸し借りで絆をつくる中国文化 / 166
- 中国女子とつき合うのは圈子に入る覚悟で / 171
- ハニー・トラップの甘い罠 / 173
- 親中派を増やす新手の工作員 / 176
- 外交に使われる中国美女 / 180
- ハニー・トラップの対抗法 / 182
- 結婚しないと地獄に落ちる!? 中国女子の結婚観 / 186
- 中国妻とのリアルな結婚生活 / 191
- レベルが違う中国の痴話喧嘩 / 192
- 中国女子が見る日本男子のイメージ / 194
- 中国人は日本人を見下しているのか / 197

第6章

日本男子は中国女子とつき合えるのか？

- ❁ 突き詰めて考えない中国女子／199
- ❁ 結局、中国女子は日本人と結婚したいのか？／202
- ❁ 日本男子の顔はパスポートに見える？／205
- ❁ 国籍のために二人分稼ぐ中国女子／209
- ❁ 中国人との上手なつき合い方／214
- ❁ 日本人は「弱み」を持つな／216
- ❁ 中国女子とは、愛を語るよりビジネスを語れ／218
- ❁ 中国人の本心はけっしてわからない／221
- ❁ 日本人の大きな誤解／224
- ❁ 厳しいからこそエリートも生まれる中国社会／226
- ❁ 中国の男は銃で撃たれても死なない？／228

● 世界に広がる中国人ネットワーク / 232

● 多様性を楽しむことが理解への道 / 234

おわりに……福島香織 / 239

第 1 章

“中国女子”とは
何者なのか？





どんな女性が、中国女子と呼ばえるのか？

福島 ●「中国の女性とは」といっても、なかなかひと言で当てはまるものがないですよ。ね。

宮脇 ●中国人もいろいろで、ひと口では言えませんから。住んでいる地域によっても違うし、どこを切り取るかによつて全然変わってきます。

たとえば、いま日本の男性が思い浮かべる中国女性のイメージというと、やっぱりまずは美人ですよ。テレビに出ているタレントやファッションモデルなど、少し前には「女子十二楽坊」もブームになりました。

それで、日本人に比べて「足が細い」「背が高い」「統率がとれていてみんなの動きがそろっている」というイメージがあると思います。だから、中国女性との結婚仲介業もすごく盛んでした。

福島 ●いまもけっこうありますね。

宮脇 ●それは、これまで結婚できなかった日本の年配男性が対象ですね。

中国人の中から日本の国籍が欲しい人を探してきて仲介するんです。そこでもやっぱり見た目で選んでいる部分があつて、まずは若くてきれいというイメージから入っているような気がしますね。

福島 ●私の場合は、やはり『夜のお姉さん』のイメージがあります。以前に『潜入ル

ポ 中国の女』という本を書きましたが、日本の男性が駐在や旅行で中国に行つて、現地で親しく話す女性というのは限られてきます。

たとえば、北京や上海などの大都市に仕事で行ったとき、もちろん同僚や会社の人とは話すと思いますが、ふつうの主婦や大学生と友達になつていろいろ話すようなビジネスマンはほとんどいませんからね。やっぱり、夜のお姉さんが一番身近な女の人になるんですよ。

それで、そういう女性たちと仲良くなつて、中国のことを教えてもらつたりしながら、「中国の女の人つていうのはこんな感じなんだ」というのを理解していくんです。

私自身もそういう人たちとつき合つてきてわかつたのですが、夜の世界の女性たちにも実にさまざまなケースがあります。地方の農村から出稼ぎに来ている、

ちよつと容姿のきれいな女の子だったり、大学生のアルバイトだったり、昼はふつうのOLで夜だけそういう仕事をする人もいました。

別に体を売るわけではなくて、「男の人と一緒にお酒を飲んで話をするだけで、こんなにもらえるんだから、これが一番いいバイトなのよ」というような子もたくさんいます。

また、信じられないような大金持ちだけを相手にする会員制の店もあれば、自分自身も軍に所属しながら党や軍の幹部だけを相手にするような、ふつうの人が足を踏み入れられないようなところもあります。

そんなふうに、夜のお姉さんの世界だけでもいろいろな層があつて、一概には言えないのですが、日本人の男性が最初に接触するのは、おそらくそういうタイプの女の人です。

彼女たちがいったいどういう人たちなのかと思つて聞いてみると、けっこう背負っているものが大きかったり、意外とふつうの女の子の夢があつたりするんですね。

日本でも夜の世界は非常に階層的で、たとえば一流店のチーママクラスになれ

ばもうふつうのOLとは貫禄かんろくも金回りも違うし、知性やマナー、話し方も洗練されています。

一方では旦那だんなさんが働かないから生活に困って「私が稼がないと子供を育てられないから」と言つてデリヘルで働いているような主婦もいるわけです。だから、もちろん日本でも一概には言えないのですが、中国の場合はそういう世界に所属する人の割合が圧倒的に多い。

それはなぜかというと、基本的にはやっぱり貧しいからです。

これは非公式のデータですが、体を売る女性は中国全体で最低でも六〇〇万人いると言われています。そして、それを専売にしているわけではないですがチャンスがあれば売る、という予備軍も入れると一二〇〇万人と言われています。いまはもつと多いかもしれないですね。



中国の夜の女・小姐たち

福島 ● そういふ人たちは総称して小姐（シャオチエ）と言われます。これはもともと

「お姉さん」「お嬢さん」という意味の言葉です。だけど、陰では鶏（ジー）という蔑称べっしやうで呼ばれているわけです。男の場合は「お坊ちゃん」という意味で小爺（シャオイエ）と言います。

宮脇 ●言葉というのはインフレーションを起こすので、いい言葉でもみんなが使うようになると、そういうふうな裏の意味が入ってくるんですよね。小姐って、本来は良い意味で、ふつうの若い女性に対する呼びかけですから。

福島 ●年上のお姉さんは大姐（ターチエ）ですよね。

宮脇 ●日本の「お姉さん」にしてもそうですが、表の言葉にそういうニュアンスがつくと、もうそつちの意味で使われるようになってしまふんです。

福島 ●いまはふつうの女の人が小姐と呼ばれるのを嫌がります。昔はお店の店員さんに対して小姐と呼んでいたのですが。

宮脇 ●私も昔は台湾で小姐と呼ばれました。知らない女の人に呼びかけるときには、誰でもそう呼ばれたんです。ところが、いまはそういう意味のほうが強くなってしまうんです。またその頃、中華人民共和国にそういう仕事はないことになつていましたから。

福島 ●表向きはそうです。でも、実際はあつたわけですが。中国の人口は約一三億人で、そのうちの半分が女性としますよね。本当は、女性のほうが若干少ないのですが。

宮脇 ●中国では間引きをしますからね。

福島 ●だいたい六・五億人ぐらいが女性とすると、そのうち未婚女性の年齢層でそこきれいで体が売れる人というのは、五人や一〇人に一人の割合だと言われています。だから、冗談で「北京でちよつときれいな女の子はみんな夜の女だよ」と言われていました。まあ、半分本当だと思いますが。

宮脇 ●なんでそんなに日本と違うのかというと、先ほどの間引きの問題だったり、都市籍と農村籍の戸籍の違いだったり、中国特有のいろいろな要素があるわけです。それをこれから一つひとつ取り上げていきたいと思いますが、一見すると日本とよく似ているように見えますが、実際には全然違うことばかりだということですよ。

福島 ●だから、中国の女性というものを考えるときに、そういう人たちだけを取り上げればいいのかというと、それも違います。もちろん、公務員もいればOLも

いるし、学生やふつうの主婦だっているわけですから。その中で、本当にプロフェッショナルな女性も存在するし、本当にいろいろな顔を持っています。

しかし、夜の女が実はそんなに多いという事実は確かです。日本人のイメージとしても、「中国の女性」と言われたときに浮かぶのは、やはりそういう女性たちではないかと思えます。

もう一つ言うと、外国で中国人がいないところはないと言われています。それは同時に、中国小姐がいない世界もないということなんです。つまり、外国に中国人が行くとそこにチャイナ・タウンができ、中国小姐が来て、そういう夜のお店ができるわけです。

私の知り合いの外国人特派員に、中国人をテーマに世界中を取材している人がいるのですが、ドバイに行つて驚いたと言っていました。一時期、中国の温州商人がドバイの高層ビルなどを買いあさつていると言われていましたよね。

実際に行つてみると、本当に「ここは温州か、それとも義烏（イーウー）か」と思うくらい、中国マーケットが広がっているわけです。義烏というのは、中国にある世界最大の卸売のマーケットのことです。

なぜ、そんなところにも中国マーケットがあるのかと言えば、そのあたりの不動産を温州商人をはじめとした中国人が買いあさって投資をしているからです。現地の一泊六〇万円くらいする高級ホテルも、泊まっているのはほとんど中国人だったそうです。二年くらい前の一番勢いがあつたときですからね。

そういうふうに中国人が入ってくると、彼らは中国文化を持つてくるからまず中国人マーケットができる。そして、路上で客を取るような人も含めて中国の女もみんな来るので、クラブやカラオケ店などの夜のお店もできてくるというわけです。

海外でそういう現象が起こる国は中国とロシアぐらいと言っていました。だから、中国人娼婦しょうふとロシア人売春婦は世界中どこにでもいるという話はよく聞きますね。



留学生の中国女子事情

宮脇●もう一つのケースとしては、日本に留学してきている中国女性というのもあり

ます。レストランのウェイトレスでもいいし、大学生でもいいですが。でも、この場合は日本語ができる中国女性なんですよ。だから、日本の男性は結局日本語で彼女たちとつき合うわけです。

彼女たちは、日本語を使うときは無意識に日本人になりすまします。日本人が中国語を勉強しても、向こうのほうが先に日本語を話せるようになるので、結局、日本語で会話していることが多いんです。

彼女たちは日本の文化を勉強しに来ているし、やっぱり日本に対する憧れがありますから。来ているのは、沿海部のちよつと欧米化している町の人か、東北三省からが圧倒的に多いです。

福島 ● やっぱり、親世代がちよつと日本語を話していたりという影響がありますよね。

宮脇 ● 日本の文化に親和性がありますから。もともと親しみがあるので、親戚しんせきに薦められたり「日本なら行っておいで」という感じで送り出されてきています。つまり、昔本当に日本と関係があつたところから来ているわけです。

だから、その人たちは日本のことを熱心に勉強するし、日本語も覚えます。日本人としたら「中国人は日本人と同じだな、僕たちと全然変わらないよ」と思

うわけです。ところが、一緒に中国に行ったりして中国人だけの場で彼女がワーツとすごい勢いで中国語をしゃべり出すと、もうびつくりしちゃうんですよ。「人格が違う」「こんな人だとは思わなかった」というわけです。

でも、彼女にしてみたら「そんなこと言われても」と思いますよね。中国人とつき合うときはそれ以外に方法はないんです。中国人相手には押すしかなくて、そうしないと侵食されるし、相手のいいようにされてしまうので、そういう人格にならないといけないんです。自分の領域に踏み込まれないためにはまずこっちから踏み出すというのが、中国人同士のつき合い方なんです。

それはもう無意識にやっています。中国という大陸の中で人間関係を持つときは、まず「これは嫌」「あなたはこうして」という条件を主張して、それに対して向こうも言うてくることのでぶつかって、人間関係の中間地点が決まるんです。日本人はそういう接触が悪いことだと思っっているので、お互いに遠慮して引いてしまいます。真ん中に緩衝地帯があつてつき合い、二人とも踏み出さないわけです。

ところが、中国人同士は違います。言葉のわからない人間がいっぱい暮らして

いて方言差が大きいですから。ひと言で中国語と言っても、普通話（プートンホウ）というのは外国語と同じで、中国人同士でも自分の地方の言葉とは文法や発音がまったく違うんですよ。

日本人が英語を勉強して話せるようになるのと同じような感覚で普通話を使っているわけです。もともと文化も考え方も違うし、言葉が通じないから、自分のしたいことと相手にしてほしくないことはすぐに全部言ってしまうわけです。お互いに言葉に出してガンガン言うことで真ん中に線を引いて、そこからは踏み込まないでつき合うというスタイルなんです。だから、日本人はふつと引くし、中国人はわつと押す。もう全然感覚が違います。

福島 ● 中国人は相手の領土を奪いにいく人たちですから。緩衝地帯にも入ってくるんですよ。

宮脇 ● ぶつからなかったら、まだ真ん中ではないと思っていてるわけです。それに、自分がやったことに相手が怒らないということは「まだ本気じゃない」「まだ余裕がある」と思って、どんどん来るんです。

福島 ● だから、中国の人とは喧嘩けんかしなさいというのは、そういうことなんですよね。「喧

「嘩しないと本当の友になれない」という諺ことわざがありますが、ぶつからないで逃げていたら、いくらでも来ますからね。

宮脇 ● 向こうはそれを悪いことだと思っていませぬ。ひたすら真ん中を探してぶつかるまで来るんですよ。それで、留学生も留学生なりに、アルバイトなどで学んでいくわけです。

福島 ● 苦労して、そういう日本的なコミュニケーションを習得していくんでしょね。
宮脇 ● そこでわかる人とわからない人の二手に割れます。全然理解できなくて日本人が嫌いになる人もいれば、うまく順応していく人もいる。それは向こうの能力によりますから。



男女平等な中国社会は女性起業家に有利？

宮脇 ● 中国には約一三億人の人口がありますが、そのうち一パーセントの人たちが約四割の富を占めていると言われています。

福島 ● そのくらい、不公平だということですよ。